

社 報



続・元請と名義人

募集中です

高校卒業者を対象に、型枠技能職を募集していましたが、応募書は1名だけでした。

就職に関しては、高校生は受難の時代と言われているようですが、それでも応募の状況は良くありません。

建設現場で手に職をつけたい若者がいれば、是非とも当社に来ていただきたいと思います。



前回のまとめ

- ・元請と名義人は相互補完の関係
- ・名義人は労務確保と需給調整
- ・元請は名義人に優先発注
- ・成長経済前提のモデル
- ・経済成長が崩れるとともに崩壊
- ・労務確保が容易になり名義人不要
- ・労務確保心配なくコスト競争激化

こうした流れで、専門工事の単価が減少し続け、現場技能工への処遇が悪くなり、専門工事業者の経営も厳しいものになったと、述べました。

昭和30年代・昭和40年代は、戦後復興の建設好景気の中で、多くの人が建設産業に入職しました。

職業というものは、一度選択すると、簡単に鞍替えというわけにはいきません。一所懸命覚えた技術・技能は自身の能力として、有効に活用したいと思うのは当然です。

昭和40年(1965年)に18歳で建設業に就職した人がいたすれば、その方は、64歳になっています。サラリーマンとしては定年ですが、職人としては、体力が落ちたとしても、現役を続けられる、ぎりぎりの歳です。

これから先は、こうした戦後復興の好景気に憧れて、建設産業に就職した人が続々とリタイアされます。

昭和50年代は、すでに建設冬の時代と言われ、他の産業が成長するのを横目に、衰退する代表業種かのようになり、就業対象としても他の産業に比して、魅力を失うようになってしまいます。

現在の建設業は冒頭のように、非常に厳しい状況ですが、人手不足の感は、年々高まりつつあると思います。

結果的には何十年という単位で需給調整を行ってきたということが、反映されている感じがします。

ベテランが続々とリタイアしていきますが、若者は入ってこない状況の中、これから新たに、元請も名義人も次の時代をどう作るかを真剣に考えねばならなくなってきました。

現場最前線での生産が危うくなっています。今までなんとかやってきたから、これからはなんとかするわけではありません。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

10月第1週は衛生週間です

10月の第1週は衛生週間です。働く人の、衛生を守り健康を確保するために、意識付け行い、職場の状況を整備しようとするものです。

主旨は大変よいものです。しかし、職場の快適も大切ですが、働く人の処遇を改善することが、もっと重要であると感じます。

精神衛生という言葉がありますが、

働きがいがないような処遇では、頑張りも利きません。

働く意欲が後退することが、労働者にとって、最も健康を阻害していることではないかと思います。

働きがいのある職場にするためには、他にはない視点でモノを考え、常に効率を追求し続けねばなりません。考えることがより重要です。

2011年 安全成績

■現場災害 H23.1.1-H23.9.30

休業災害	-----	2
不休災害	-----	2
物損災害	-----	0
その他	-----	0
合 計	-----	4

■交通災害 H23.1.1-H23.9.30

人身災害	-----	0
物損災害	-----	1
合 計	-----	1